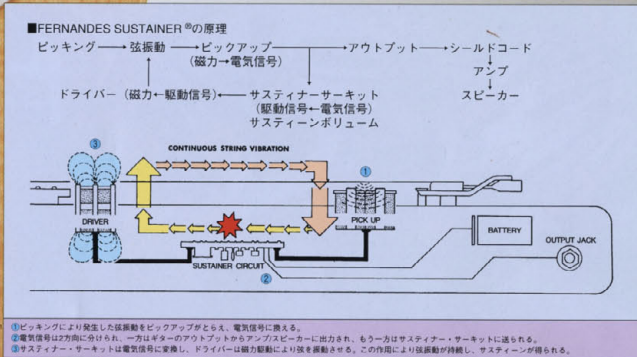


# FERNANDES SUSTAINER



## サスティナー・ファンクション

フェルナンデス・サスティナーは、「弦振動」を自由にコントロールするために開発された、サスティーン・コントロール・システムである。スイッチをONにして音場に演奏するだけで、弦振動を延々と持続させる超ロング・サスティーンが得られる。ギターにおいて最も重要な要素の一つである「サスティーン」をフェルナンデス・サスティナーが「弦振動そのもの」を持続させることによって作り出す。電気信号を加工して効果を得るエフェクターとは全く異なり、サウンドはあくまでもナチュラルなギター・サウンドだ。さらにフェルナンデス・サスティナーには、ハーモニックスの成分の異なる3種類の弦振動を切り替える「モード・セレクター」と、弦振動の強さを設定する「サスティーン・ボリューム」が標準仕様として装備されている。これらのアイテムが「音をのばす」だけでなく、様々な「サスティーン・ニュアンス」のアプローチを可能にする。誰もが、いつでも、確実に、弦振動をコントロールできるフェルナンデス・サスティナーは、まさにギターを進化させる最新鋭のデバイスといえる。

## サスティナー・コントローラー

フェルナンデス・サスティナーは、システムON/OFFスイッチ、サウンド・モード・セレクター・スイッチ、サスティーン・ボリュームの3つのコントロールウエッジを持っている。システムON/OFF文字通りサスティナーを動作させるスイッチで、サスティナーをONにするると自動的にリフ・ピッキングアップが選択される。サウンド・モード・セレクターは、スタンダード・ピックアップ・ハーモニックスの3つのポジションがあり、スタンダードでは馴染みのある通常のピックアップ・トーンを保持し、ハーモニックスでは1/2の倍音がフィードバック・サウンドのように聞こえ、ミックスはスタンダードとハーモニックスの中間的な音響性を持っている。サスティーン・ボリュームはセンター・リリックでクリーントーン・コードプレイ向き、フルボリュームでディストーション・ブローチ向きとなっている。ポアニー裏にはバッテリー・インジケーターが装備されている。

## Akira Wada / P-PROJECT NA-AW-7

クリーン・サウンドで音が伸びるということが、サスティナーの最も効果的な部分だと思うんですが、以前ほどとて有るなかったことでよふんだから音が伸びない伸びがないと悩んでる人は、サスティナーを一発使ってみれば、不満は解消されると思います。また演奏の守備範囲も広がると思うし、キーボードの白目のようなサウンドも出せるから、曲全体のサウンドやアレンジを考える時のイメージが広がると思います。

## Kouchi Korenaga / P-PROJECT PJK-3

僕のサスティナーの使い方は3種類に大別できます。ひとつめはクリーン系の音の使い方で、僕自身、ふたつめはハーモニックスモードを使って、ある種のエスニック楽器のニュアンスを取り入れます。最後は最近トワイレ始めたんですがパーカッション/ノイズ系の音。例えばはピッチブenderを使ってカリッパやスリッドみたいな音をつくったり、シンセのバースをディストーション的なものをシミュレートしたりしています。

## Takeshi Honda / P-PROJECT NA-TH-3

特殊かどうかはわかりませんが、僕が良く使うのが強力で歪ませでワウをかけた、強くゲートをかけてハーモニックスモードではビレットあたりを強調してサスティンするといやつです。ゲートによって突然ハーモニックスサウンドが出たり入ったりするという面白い効果があります。普通の音がからハーモニックスサウンドになる途中を音断しているのがミステリーです。

## Takeshi Nishiyama / FERNANDES FR-85S

サスティナーは音作りの時に役立つんじゃないかな。例えば音自体は気に入ってるけど、もうひとつ思いがけないサスティンが欲しい、そういう時は、普通はワイヤを上げてさらにトワイレさせちゃう。そうするとさっさと作った良い音が潰れてもともこもなくなっちゃう。でも、そこでサスティナーを使うとサスティンだけを押さずすね。歪ませるタイプのギタリストにとっては普通の腕とサスティンというのは永遠のテーマですわね。

# SUSTAINER ARTISTS

普通のギターだったトーンを丸くするとサスティーンも減っちゃうじゃないですか、でもそこでサスティナーを使うと、丸い音のまま伸びる。そういう部分でサスティナーを使うようになったということもあります。始めのうちはもっぱら効果音的の使い方をしてたんですが、でも最近ではサスティナーを使ってメロディを弾くようになったし、曲作りの段階からサスティナーを使用するようになっています。

## Atsushi Yokozeki / FERNANDES FR-CUSTOM-S

僕はいつもミックスモードで使ってます。微妙なんですけど音の広がりがいい感じで、そこからハーモニックスが混ざってくる感じがほんとにいいかなと思って、ピッキングなしで音場だけかこむのは僕がアコースティックが好きなんで、あとスウィング・メロディも使ってます。あと、これはクリケツ・メロディ、あれとサスティナーのハーモニックスモードを組み合わせると、いやらしくて良い音がするんですよ。(笑)

## Kazuhide Shirota / FERNANDES BH-155S

これまで制約が多くて確実性に欠けていたフィードバックを自分でコントロールできるということが一番大きな利点だと思う。特にライブにおいてはお客に背を向けるということは避けたいので、ギターを向かい向くという一番前に立って自分のフィードバックが得られる快感、それに慣れていようが何しても、ずっとフィードバックが伸びている感じが何となく、ずっと観望している感じがする。(笑)

## Toshiya "RAN" MatsuKAWA / FERNANDES FR-CUSTOM-S

ライブにサスティナーは本当に役立ってるんですよ。僕はギターをほとんど自分で作っていて、ギターも音も自分で作ってる。そのまわりでサスティナーに当たって、そういう時は、普通はワイヤを上げてさらにトワイレさせちゃう。そうするとさっさと作った良い音が潰れてもともこもなくなっちゃう。でも、そこでサスティナーを使うとサスティンだけを押さずすね。歪ませるタイプのギタリストにとっては普通の腕とサスティンというのは永遠のテーマですわね。

## Hide / FERNANDES MG-340X